

# 環境経営レポート

(2021年度)



わたしたちは、いちばん大切なひとに笑顔をお届けするため、  
人にやさしい・地球にやさしい、食品づくりを目指します。

2022年 9月 1日

(2021年4月～2022年3月)



株式会社 **みすず**コーポレーション

# 目次

1. 会社概要
2. 環境経営方針
3. エコアクション21推進体制
4. 環境経営目標と実績
5. 次年度環境経営目標と環境活動計画
6. 主要な環境経営計画及び環境活動と結果の評価
7. 次年度環境経営計画
8. 適用法令の遵守状況
9. 経営者コメント

## 1. 会社概要



- 事業者名及び  
代表者名 株式会社みすずコーポレーション  
代表取締役社長 塚田裕一
- 所在地 本社・本社工場：  
〒380-0928 長野市大字若里1606番地  
電話 026-226-1671(代表)  
更北工場：  
〒381-2212 長野市小島田町字中村北沖2122-1  
電話 026-284-5165  
山梨工場：  
〒406-0854 山梨県笛吹市境川町寺尾526-1  
電話 055-266-5161  
北アルプス大町工場：  
〒398-0004 長野県大町市常盤9272番地  
電話 0261-85-2302
- 対象事業所 本社・本社工場、更北工場、山梨工場、  
東京支店、名古屋支店、大阪支店、札幌営業所、仙台支店、  
広島支店、四国営業所、福岡営業所(2022年3月)  
北アルプス大町工場については2022年度拡大予定
- 管理責任者氏名 環境管理責任者：設備統括本部 取締役統括本部長 牧 茂
- 担当者連絡先 担当者：リサイクル管理部 部長 宮尾幸彦  
連絡先：電話 026-226-1671 Fax 026-223-2271
- 事業内容 凍り豆腐、油揚げ及び味付け油揚げ等の研究開発、製造及び販売  
再生可能エネルギーによる発電及び電気の販売
- 総売上高 16,370百万円(2022年3月)
- 従業員数 881名(2022年3月)
- 工場の規模 工場延べ床面積:44,276m<sup>2</sup>(2022年3月)  
敷地面積:69,049m<sup>2</sup>(2022年3月)

## 2. 環境経営方針

### みすずコーポレーション環境経営方針

光や水、空気、そして食物を生み出す豊かな天地、自然は私たちの生命を育むかけがえのないめぐみです。当社は、この自然の恩恵に心から感謝し、この自然のめぐみを生かすことに心を配りながら「おいしいはやさしい」のキャッチフレーズの下、事業活動を進めてまいりました。当社は、「健康」と「環境」というかけがえのない宝に寄与する企業としての、又、豊かな日本の食文化を継承する企業としてのプロの誇りと責任を持って、環境保全活動に積極的に取り組み、資源循環型企業を目指すにあたって、次のことを約束します。

1. 当社の事業及び製品が、環境に与える影響を認識し、積極的に環境負荷の低減に取り組みます。
2. 社内に環境マネジメントシステムを構築し、システムの継続的な改善を図ります。
3. 食品リサイクルを推進します。
4. 省エネ活動でエネルギーの有効活用を図ります。
5. 省資源活動で環境資源の保全を図ります。
6. 化学物質を適正に管理します。
7. グリーン購入を推進します。
8. 環境関連法令や条例を遵守します。
9. 環境教育と地域貢献活動を推進します。

この環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外へも公表します。

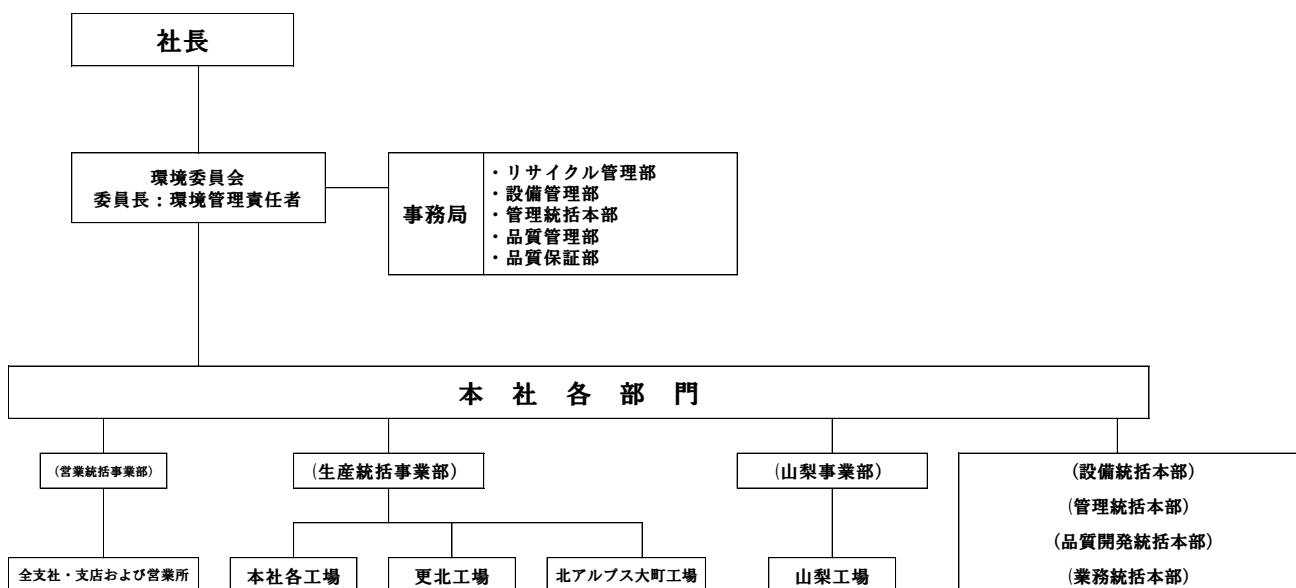
2020年 3月 14日

株式会社 みすずコーポレーション

代表取締役社長

塚 田 裕 一

### 3. エコアクション 21 推進体制



### 4. 環境経営目標と実績

#### ■ 中期(2021年度～2023年度)環境経営目標

1. 食品廃棄物の排出量は2023年度には排出量の原単位で2020年度比3%削減した量を目標とする。食品リサイクル率は2020年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2023年度には、エネルギー原単位で2020年度比3%削減し、CO2 排出量はCO2 排出量原単位で2020年度比3%減少させる。
3. 水使用量については、全社的な水削減活動を展開し、2023年度には原単位で2020年度比3%削減する。可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2023年度には廃棄量の原単位で2020年度比3%削減した量を目標とする。直管部門は毎年、廃棄量を1%削減する。
4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境経営レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。

#### ■ 2021年度 全社環境経営目標

年度目標は次のとおりとする。

1. 食品廃棄物の排出量を2021年度には、2020年度の原単位比1%削減し、食品リサイクル率は2020年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2021年度には、エネルギー原単位で2020年度比 1%削減し、CO2 排出量を、CO2 排出量原単位で2020年度比1%減少させる。
3. 水使用量については、全社的な水削減活動を展開し、原単位で2020年度比1%削減する。

可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2020年度の原単位比1%、直管部門は廃棄量1%をそれぞれ削減する。

4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境経営レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。

■2021年度環境経営目標と実績

○=達成 △=未達

2021年度 全社環境経営目標		2021年度実績		評価	
1	食品廃棄物 排出量	2020年度の原単位比 1%削減	原単位売上	原単位で 1.24t/百万円(2020年度 1.28t/百万円) と 3.1%減少 食品廃棄物発生量:20,225t ※1	○
			原単位生産量	原単位で 15.90t/百万枚(2020年度 16.42t/百万枚) と 3.2%減少 食品廃棄物発生量:20,225t	○
	食品リサイクル率	2020年度実績の維持	食品廃棄物の再生利用実施率は 98.6%		○
2	使用エネルギー量	2020年度原単位比 1%削減	原単位売上	エネルギー原単位で 46,292.7MJ/百万円(2020年度 44,937.3MJ/百万円)と 3.0%増加 使用エネルギー量:755,821,792MJ ※2	△
			原単位生産量	エネルギー原単位で 15.33 Kl/百万枚(2020年度 14.86Kl/百万枚)と 3.2%増加 使用エネルギー量:19,500.2Kl(原油換算 Kl) ※2	△
	CO <sub>2</sub> 排出量	2020年度原単位比 1%削減	原単位売上	二酸化炭素原単位で 2,162.2kg-CO <sub>2</sub> /百万円(2020年度 2,176.9kg-CO <sub>2</sub> /百万円)と 0.7%減少 CO <sub>2</sub> 排出量:35,302,744kg-CO <sub>2</sub> ※2	△
			原単位生産量	二酸化炭素原単位で 27,761.6kg-CO <sub>2</sub> /百万枚(2020年度 27,892.3kg-CO <sub>2</sub> /百万枚)と 0.5%減少 CO <sub>2</sub> 排出量:35,302,744kg-CO <sub>2</sub> ※2	△
3	水の使用量	原単位で2020年度比1%削減	原単位売上	使用量: 4,210,036m <sup>3</sup> /年 原単位で 257.9m <sup>3</sup> /百万円 (2020年度 266.3m <sup>3</sup> /百万円)と 3.2%減少	○

		原単位生産量	使用量: 4,210,036m <sup>3</sup> /年 原単位で 3,310.7m <sup>3</sup> /百万枚 (2019年度 3,412.3m <sup>3</sup> /百万枚)と 3.0%減少	○
4	可燃ゴミ・廃 プラの廃棄量 工場部門:2020年度 原単位比1%削減 直管部門:2020年度 廃棄量1%削減	原単位売上	全社:原単位で 0.0168t/百万円 (2020年度 0.0161t/百万円)と 4.3%増加 可燃ゴミ・廃プラ量:275.38t ※3	△
		原単位生産量	全社:原単位で 0.217t/百万枚 (2020年度 0.206t/百万枚)と 5.3%増加 可燃ゴミ・廃プラ量:275.38t	△
5	営業部門における当社の環境への取り組み、資源循環型企業の考え方の明確化	営業店において商談の際に環境経営レポートを使用してお客様に当社の環境への取り組みを説明することが日常的に実践されるようになった。また、お取引先の工場見学時にもレポートを配付しています。		○
6	グリーン購入を推進する。	購入する以前に必要性、耐久性、ごみの発生が少ない商品を選ぶと共に、価格とも対比して購入商品を選択する。継続的に実施しています。		△
7	コンプライアンスの体制整備	緊急事態発生時に管理者への報告や安否確認が出来る緊急連絡網の仕組みを構築して運用しています。緊急事態発生時には危機管理委員会を開催、週次の経営会議で状況を報告し情報を共有しています。		○

※1 環境負荷とりまとめ表の食品廃棄物発生量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

※2 全社数値にて算出しました

(2019年度各電力株式会社の調整後の実排出係数(環境省資料より))

※3 一般廃棄物+廃プラ排出量を売り上げ高で割った数値を原単位としました

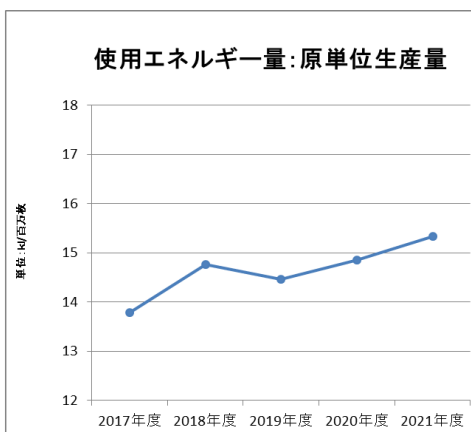
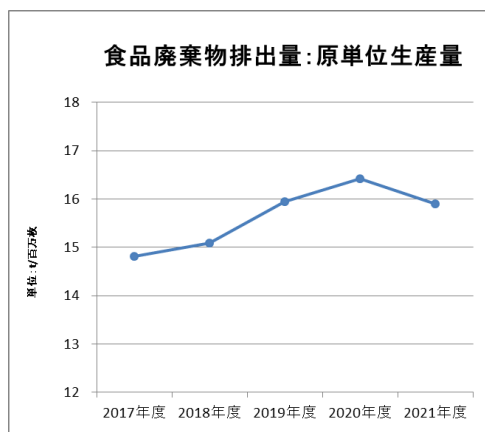
原単位生産量計算式

原単位量 : 2019年度 1,284.13 百万枚

: 2020年度 1,250.68 百万枚

: 2021年度 1,271.64 百万枚

計算式 : 発生量(t) ÷ 原単位量(百万枚)



## 5. 次年度環境経営目標と環境活動計画

### ■ 2022年度環境経営目標と環境活動計画

年度経営目標は次のとおりとする。

1. 食品廃棄物の排出量を2022年度には、2021年度の原単位比1%削減し、食品リサイクル率は2020年度実績を維持する。
2. 使用エネルギーを2022年度には、エネルギー原単位で2021年度比1%削減し、CO2排出量を、CO2排出量原単位で2021年度比1%減少させる。
3. 水使用量については、全社的な水削減活動を展開し、原単位で2021年度比1%削減する。可燃ごみ・廃プラの廃棄量は、工場は2021年度の原単位比1%、直管部門は廃棄量1%をそれぞれ削減する。
4. 化学物質使用量は既定量を遵守し、適正な管理を行う。
5. グリーン購入を推進する。購入時に必要性を考え、環境負荷が出来るだけ少ないものを選ぶ。
6. 環境経営レポートには当社の資源循環型企業としての考え方や行動を記載し、営業活動等においても企業姿勢を明確にする。
7. コンプライアンスの体制を維持する。

## 6. 主要な環境経営計画及び環境活動と結果の評価

### ■ 2021年度環境経営計画

#### ①環境教育

年1回は環境教育を実施し、社員の環境への意識を高める。

#### ②食品廃棄物のロス削減及びリサイクルの推進

MPS活動(小集団活動)でロス削減目標をテーマとし、改善活動に取り組む。

#### ③緊急事態対応訓練の実施

緊急事態を想定した各種の教育・訓練を実施する。(年1回以上)

#### ④省エネルギー対策

燃料(都市ガス)・電気を中心とした、省エネルギー活動を実施する。

各省エネ事例の収集と補助金活用の検討。

#### ⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

環境強化月間を設定し、工場周辺清掃活動や周辺河川清掃を実施する。

環境活動により、地域貢献活動を推進する。

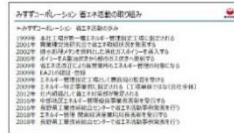
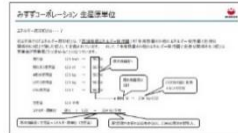
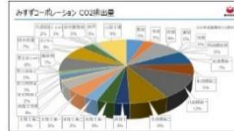
## 環境活動と結果の評価

### ① 環境教育

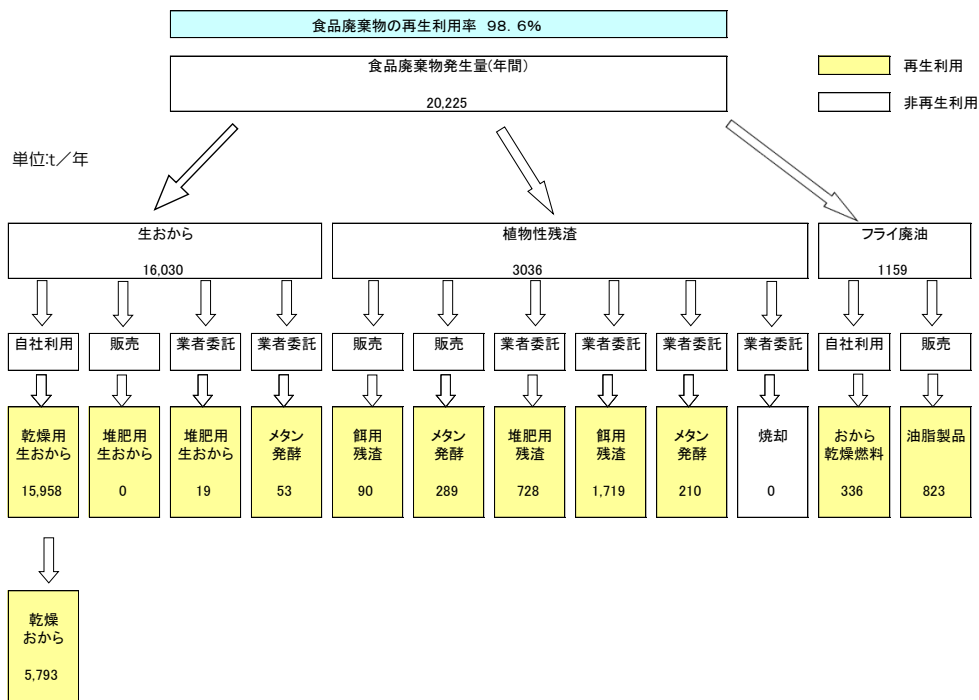
#### ■エコアクション21教育(2022年2月)

当社におけるSDGs、環境、省エネの取組についてセミナーを開催しました。

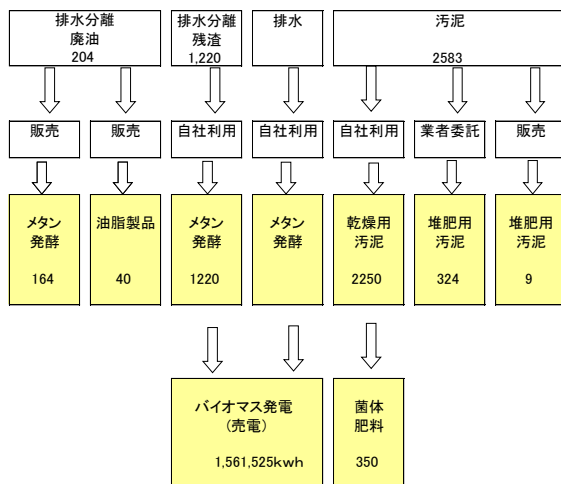




## ② 食品廃棄物のリサイクルの推進及びロスの削減 【廃棄物のリサイクルの推進】



その他廃棄物



## 【食品廃棄物のロス削減】

### MPS 改善活動報告

MPS 活動開始から 5 年目を迎え、第 9 回目となりました。現在では社内の改善活動として根付き、ロス削減やライン生産性向上だけでなく、品質や安全衛生などについても改善活動テーマとして取り組めるようになりました。

2021 年度に実施した改善活動で、優秀な成績をおさめたサークルの活動内容を紹介します。

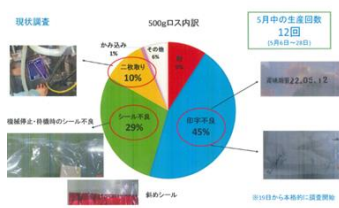
### 第 9 回 MPS 活動

金賞: 凍り豆腐 包装 ポリ亭サークル

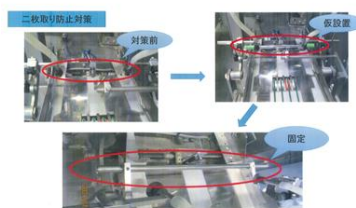
「バリア包材切り替えによるフィルムロス 90% 削減」

バリア包材に変更後、ロス率が 12.6% と変更前より 7.4% 増加したため、ロス率 5.9% までの削減を目標とした。現状調査によるロスの発生状況から、特に多発していた印字不良、シール不良、二枚取りの防止対策について考察し、設備的な改善等を実施した。それにより、4 月(包材変更後)に 12.6% だったロス率が 8 月には 5.7% まで減少し、包材切り替え後に増加したロス率の 93% 削減を達成した。

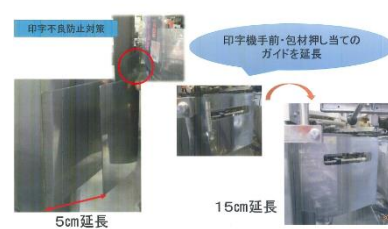
#### 現状調査



#### 対策(二枚取り防止)



#### 対策(印字不良防止)



金賞: 西加工 加工包装(家) ナナ

「PB 商品箱詰め作業の効率化(10%)・クレーム削減(10%)」

PB 商品箱詰め作業が移管し、それに伴い箱詰め作業の見直し、かつクレーム削減と品質確保の上で作業性向上、作業方法の確立を目指した。現状調査を実施後、作業内容を見直し、5 人体制から 3 人体制へと変更、検品基準の明確化により品質を確保したうえで一人当たりの生産性が 66% 向上した。その結果、作業人員 2 名削減により 1,398,960 円/年の効果金額が見込まれ、活動開始以降のクレーム発生数も 0 件と目標達成した。

#### 対策(作業方法の見直し)



作業者の行動を分析 作業内容見直し マニュアル作成

箱詰め作業  
5 人体制 → 3 人体制 確立

## 第10回 MPS活動

金賞:凍り豆腐 乾燥 Q&A

「乾燥ライン由来による汚れクレーム削減(汚れ異常製品削減・クレームゼロ)」

前年度より乾燥職場でのクレームが9→11件に増え、そのうち前年度0件であった異物等のクレームが5件に増加したことから、裁断品前調査の異常品数(1Bあたり)を20%削減することを目標とした。キザミ乾燥機の改良、ライン設備の掃除や交換および補修や洗浄頻度の見直し、防虫対策により、対策前が149枚であった裁断品前調査の異常品数(1Bあたり)を対策後は80枚と約46%の削減に成功した。その結果、Mサイズ換算で1日当り約6,900枚のロス削減となり、年間21,279,600円の効果金額が見込まれる。

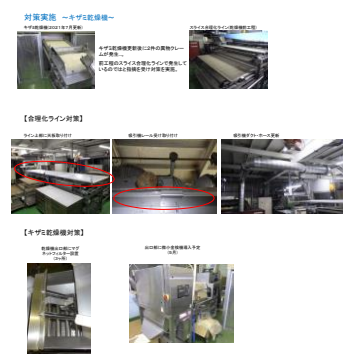
### ・現状調査

現状把握まとめ

品名	異常品数	異常品数	異常品数
凍り豆腐	149	80	69
...	...	...	...

※乾燥職場のクレームが9→11件に増加(前年比出)。特に異物、その他のクレームが0→5件と多い。  
 ※1B(1枚)あたりの異常品数は前年度より約46%削減に成功した。  
 ※その他の異常品数の多くは乾燥機由来であり、異物等が減少している。  
 ※クレームの原因はライン上部にある固定型コンベヤフレームからの異物落下(1件)  
 ※スライス合装化ラインの劣化によるキザミ製品への汚れ混入(2件)  
 ※汚れクレームはファンメンチが原因の汚れが多い。  
 ※異物等は乾燥機からの汚れが原因の汚れが多い。  
 ※ライン上部にある吸引機からの汚れ落下。  
 ※異物に関しては外部侵入の可能性が考えられる。

### ・対策(キザミ乾燥機対策)



### ・対策(葉注・解凍ライン対策)



## ③緊急事態対応訓練

緊急事態を想定した各種訓練を実施しました。

### ■火災通報訓練、消火訓練



## ■油流出、大気汚染、排水事故対応訓練



## ④省エネルギー対策

電気・ガスの使用量は前年対比 105%でした。単位生産量においては前年対比 103.2%増加となりました。省エネ対策を更に強化して原単位削減を目指します。

### 設備の省エネルギー化①(継続実施中)

油場フライヤーの断熱強化。放熱ロス 90%削減。



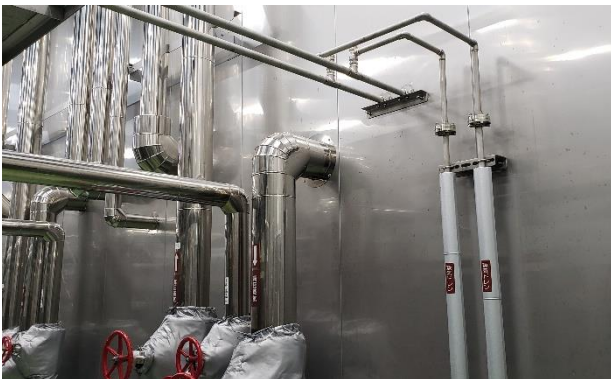
### 設備の省エネルギー化②

室外機への散水



### 大町工場での省エネルギー化①

蒸気ドレンの回収(回収率 100%)



### 大町工場での省エネルギー化②

廃熱回収エアークOMPRESSOR導入



## ⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

### ■環境強化月間(2021年6月、9月)

#### 環境強化運動実施内容

No	運 動	実施日	活 動 内 容
1	工場周辺河川清掃	3月、7月、10月	工場周辺河川の清掃を実施
2	工場周辺および敷地内、駐車場清掃	6月、9月	工場外周りの空き缶・ごみ拾い草取り等の清掃活動 敷地内草取り・排水路掃除、駐車場の草取り
3	特定敷地内草取り	8月	アークス井戸周辺草取り
4	ノーマイカー通勤 エコドライブ通勤	9月17日～30日	ノーマイカー通勤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ通勤距離 800km</li> <li>・削減した燃料使用量 68.9ℓ</li> <li>・削減した二酸化炭素使用量 159.8-CO<sub>2</sub></li> </ul> エコドライブ通勤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ通勤距離 5,786km</li> <li>・削減した燃料使用量 49.8ℓ</li> <li>・削減した二酸化炭素使用量 115.5-CO<sub>2</sub></li> </ul>



## 7. 次年度の環境経営計画

### ■ 2022年度環境経営計画

#### ①環境教育

年1回は環境教育を実施し、社員の環境への意識を高める。

#### ②食品廃棄物のロス削減及びリサイクルの推進

MPS活動(小集団活動)でロス削減目標をテーマとし、改善活動に取り組む。

#### ③緊急事態対応訓練の実施

緊急事態を想定した各種の教育・訓練を実施する。(年1回以上)

#### ④省エネルギー対策

燃料(都市ガス)・電気を中心とした、省エネルギー活動を実施する。

各省エネ事例の収集と補助金活用の検討。

#### ⑤環境コミュニケーション及び社会貢献

環境強化月間を設定し、工場周辺清掃活動や周辺河川清掃を実施する。

環境活動により、地域貢献活動を推進する。

### 8. 適用法令の遵守状況 (2021年度)

法規制等の名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物管理票(マニフェスト)及び多量排出事業者の定期報告 長野市環境部 廃棄物対策課への提出(6月実施)
食品リサイクル法	関東農政局へ報告書提出(6月実施)
省エネ法	関東経済産業局・関東農政局への報告書提出(7月実施)
地球温暖化対策法	長野県環境部への報告書提出(7月実施)
騒音規制法	特定施設の新設なし
水質汚濁防止法	排水処理の排出基準において超過なし 特定施設設置届、公害防止管理者選任届(北アルプス大町工場)
浄化槽法	年1回法定検査(本社4月、更北2月実施) 保守点検 1回/2ヶ月
市公害防止条例	水量の定期報告(4月実施)
大気汚染防止法	ばい煙量等の測定実施
フロン排出抑制法	フロン機器の簡易点検4回/年、定期点検1回/年の実施 フロン機器の廃棄時の、フロンガス回収に対しての遵守

遵守状況確認日 2022年3月31日

■上記の他、環境関連法令を遵守した活動を行っており、訴訟等もありませんでした。

油あげ工場においては、排気ダクトの清掃を定期的に行っており、油臭対策に努めております。

本社工場及び新設大町工場においては脱臭装置を新たに設置し、周辺環境への臭気対策を実施しております。

## 9. 経営者コメント

2021年度も新型コロナウイルス感染症による極めて厳しい状況が続いており、未だ収束の見通しが立たない状況です。このような状況の中での決算は、凍り豆腐部門は対前年 94.4%、油揚げ加工部門では加工市販用 100.3%と前年並み、加工業務用製品は 109.5%と戻りつつある状況です。ただし製造原価については、ウクライナ情勢の悪化や急激な円安による電気、ガス等のエネルギー価格の上昇、大豆、植物油、包材等の原材料価格の高騰により収益を圧迫しているのも現状です。対応策として値上げを含んだ販売価格の適正化交渉に取り組んでいる状況です。

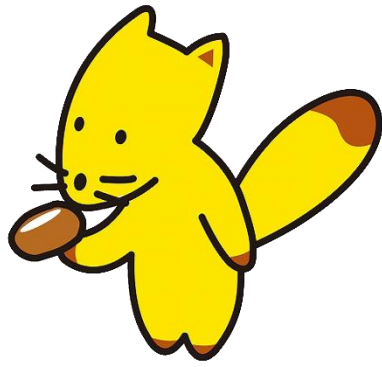
工場においては北アルプス大町工場が昨年10月から本稼働しています。また、大町工場に導入した自動化ラインを水平展開し、12月に本社工場へ導入する計画を進めています。またMPS活動の推進を更に強化してコスト削減に取り組んで参ります。

環境面では、廃棄ロスの削減・稼働率の向上・返品ロスの削減を全社の目標として活動を進めてきました。また、労働環境の整備と労災事故撲滅に向けた安全対策を進め、各工程ロスの削減にも積極的に取り組んでいきます。

エネルギー使用量は生産量の増加に伴い、総エネルギー量も増加となり、原単位生産量は 3.2%増加しました。要因は北アルプス大町工場の稼働によるもので、試験生産及び調整を1～2ヶ月実施した事により実質生産に寄与しないエネルギーが増加した為と考えられます。次年度も引き続き省エネの取組みを強化し原単位削減に努めていきます。

資源循環型生産の取組みに関しては生おからの乾燥を本社と同様に大町工場でも実施しました。また、余剰汚泥の菌体肥料化、メタンガス利用によるバイオマス発電も順調に稼働しています。外部コミュニケーションに伴う異臭対策として脱臭装置を設置し、工場周辺の住環境の向上に努めて参ります。





株式会社 **みすず** コーポレーション